

災害情報の収集方法について

河川の増水による浸水など、災害の危険が高まった場合や地震などの災害が発生した場合は、最新の情報をもとに早めに避難することが大切です。

市民のみなさんへは、「避難勧告」などの情報を次のような手段で発信しています。

一人ひとりが災害情報を収集する手段を確認し、いざという時に備えましょう。

防災行政無線

フリーダイヤルで放送の内容を確認する場合

☎ 0120(00)8863

災害情報メール

災害情報メールを携帯電話で受信（事前登録）

登録方法

① 99526001@once.81island.jp へ空メールを送り、返信された登録用返信メールに必要な事項を入力し、送信する。

② QRコードを読み込む。

※ ①または②のいずれかを選択



QRコード

緊急速報メール

市内に滞在している場合、携帯電話で受信

テレビ

各放送局による気象情報・災害情報・避難情報を、テレビリモコンのdボタン操作によるデータ放送で取得

インターネット

市公式ホームページなど



【問い合わせ先】

危機管理課

☎ 24 1742

文化財

駒手丸模型 1点
大洲市指定有形文化財
(歴史資料)
住吉神社所有



駒手丸とは、江戸時代に大洲藩主加藤家が参勤交代で使用した御座船（大名や貴人が乗る豪華な船）で、長浜から大坂まで航行し、元和2年（1616）から安政4年（1857）までの間に10回造り替えられました。

この模型は、駒手丸造船にあたった長浜町仁久の船大工が作成したもので、全長265cm、幅75cm、高さ75cmの模型です。藩主加藤家が住吉神社に奉納したのですが、破損が著しかったことから、昭和44年（1969）に國學院大学で修復され、現在、長浜ふれあい会館で保存・展示されています。

藩主が使用した御座船の模型としては県内唯一で、船の構造などを知るうえでも大変貴重な資料です。

(平成元年8月30日指定)

野鳥

オオマシコ（大猿子）
スズメ目アトリ科
全長16.5cm



申年に似合う、スズメくらいのきれいな野鳥です。猿子の由来は、身体の色が猿の赤い顔に似ているために付けられ、市内でも運が良ければ4種のマシコ類に出会うことができます。

本来は、中央および東シベリア、樺太で繁殖して、中部地方以北に冬鳥としてやって来ます。年によっては西日本にも姿を現し、数年前には久米川の堤防沿いにひょっこり現われて、話題になりました。めったにお目にかかれぬ事や、赤い色合いが目立つため、バードウォッチング愛好家にも人気があります。

珍しいという人ばかりになって生息地に詰め掛けてしまい、生息を脅かす事になりかねませんので、できるだけ遠くで優しく見守って欲しいものです。

NPO法人かわうそ復活プロジェクト⑧

シリーズ・大洲市地域づくり表彰

平成26年度「大洲市地域づくり表彰」を受賞されたみなさん（4個人、9団体）を、シリーズでご紹介します。

地域づくりに貢献

豊友会（豊茂） 会長 菊地 敏宏さん

豊友会は昭和42年、青年団を退団した若者15人によって結成されました。活動内容として、鯉のぼりあげ、人面岩付近の樹木の剪定や広場の整備といった地域づくり活動、環境美化活動のほか、社会教育活動も行われています。

また、旧豊茂小学校の校舎を中心に、周辺の民家と一体となつて夜を彩る、豊茂地区の冬の

風物詩「豊茂イルミテヤ」などの自主イベントや各種交流会を開催し、地域の活性化に努められています。

近年では高齢者への声掛け運動など、幅広い活動に取り組まれています。



伝統文化継承に貢献

上須戒相撲甚句保存会（上須戒） 会長 榎田 健一さん

上須戒相撲甚句保存会は、継承が途絶えていた「子ども相撲甚句」を昭和50年代に復活させ、以来、地区の秋祭りなどで披露しているほか、老人福祉施設への慰問活動なども積極的に行われています。

相撲甚句は、力士に扮した子どもたちが円になり、行司役の文句に合わせてはやしを入れて踊り、東西文句、弓取り式など

を行うというものです。

上須戒小学校が統廃合となった今年度も、地元の子どもたちを中心に活動を行うなど、

地域の伝統文化継承に尽力されています。



大洲商工会議所青年部 大洲ご当地クイズ

肱川地区を中心に「美」をテーマにした企画が開催されます。その名も「大洲美人紀行」。心・感性・体を磨きキレイモニターツアー、キレイ磨きのワークショップや美人画展、美・キレイ関連商品の販売などが行われます。

このイベントは、「えひめいやしの南予博2016」大洲市実行委員会が企画したイベントです。

これから大洲美人紀行以外にも、南予博関連のさまざまなイベントが行われますので、みなさんも参加してみたいかがでしょうか。

【今月のクイズ】

大洲美人紀行のイベントとして、鹿野川荘で行われている「PH10の美肌の湯で優雅に〇〇湯体験」。

さて、〇〇に入る言葉は、何でしょうか。

- ① ドクダミ
- ② バラ
- ③ ミカン



【先月号のクイズの解答・解説】

大洲市合併10周年を記念して大洲市民の歌が完成しました。そのタイトルはどれでしょうか。

- ① 大洲が大好きです
- ② 生まれも育ちも大洲です
- ③ 100年後僕らは…大洲より

解答…③

解説…大洲市民の歌の歌詞は全国に公募し、応募総数84点の中から、長浜の濱田毅さんの詞が選ばれました。作曲は、大洲市出身のたきのえいじさん。歌は、かとうれい子さんです。

土曜日、日曜日の正午と午後5時のミュージックサイレンは、大洲市民の歌が流れています。

※1月号のお年玉キャンペーンクイズに、多数のご応募いただきありがとうございました。



※今月のクイズの答えは、広報大洲3月号に掲載します。

国土交通省大洲河川国道事務所・山鳥坂ダム工事事務所だより

鹿野川ダム改造事業の進捗状況について

肱川町にある鹿野川ダムでは、より多くの量の洪水を貯めて肱川流域の水害を減らすとともに、普段流れる水を豊かできれいにするため、現在ダム改造事業を実施しています。

改造事業では、ダムの横に巨大トンネルを掘って、洪水時に下流に流す水の量を調節する「洪水吐」を新設するという、世界初の工事を行っています。そのトンネルが、工事開始から約3年をかけ、昨年12月12日(土)に市内外から参加した50人以上のみなさんが見届けるなか、無事貫通しました。

このトンネルの入口(上流側)はダム湖の中にあるため、貫通させる前にダム湖斜面部の岩盤を深



さ40メートル掘削し、水の入らない円筒形の空間をつくるという難工事が必要でした。その工事に時間を要したことから、完成は平成30年度となる予定です。

ダム周辺のみなさんには、しばらく工事が続くことによりご迷惑をおかけすることになり、申し訳ありません。一日も早く完成させ、肱川流域の洪水被害を減らすことができるよう全力で取り組みますので、ご理解ご協力のほどよろしくお願ひします。

また、普段ダムから流す水を改善するための選択取水設備工事は、今年の秋ごろに完成し、運用を開始する予定です。

カメルーン便り 第二巻

青年海外協力隊 梶田 真緒 さん

大洲のみなさん、あけましておめでとうございます。気づけば、前回からもう4カ月が経ちました。相変わらず元気な梶田です。

長期休暇が終わり、「生きる生活」から一変して「仕事をするという生活」になりました。今回は、その生活を少しだけお伝えします。

それでは、どうぞ~~~~。

【小学校と幼稚園にて】

1学期は、小学校9校と幼稚園3校を巡回し、活動を行いました。家から歩くこと20分から1時間で学校に到着します。小学校ではまず、高学年を対象に授業を行いました。もちろん現地の先生と一緒に。つたないフランス語から、意図をくみ取って伝えてくれる先生。突然やってきた日本人を温かく迎えてくれて、一緒に働いてくれています。

日本人の視点から見ると、やはり問題はゴミのポイ捨てということで、「ゴミはゴミ箱に」のテーマで授業を考えています。「そこらへんに捨てちゃだめだよ、わかったかな」というと「わかった」という児童たち。しかし、その後すぐにポイ。今の日本人のように、未来を考えているのではなく、今を生活しているカメルーンの人たち。先進国出身の私が、環境の未来をどう伝えていけるのか悩む日もあるけれど、いつか咲く花のために多くの種をまければと思

っています。

幼稚園では、簡単な紙芝居や、身近な物や廃材を使っておもちゃを作る活動をしています。シャボン玉をしたり、簡単な折り紙をしたり、一生懸命な子どもたちの姿をみて癒されています。

【ほかにやっていること】

学校外で個人的にやっていることがあります。それは日本人がカメルーンにいるぞということアピールする、名付けて日本人運動です。

毎日「ニーハオ」と言われます。多くの人が、アジアは全部中国だとか、日本人も中国語を話すと思っているようです。多くの人と関わり、私を通じて日本を知ってもらい、身近に感じてもらえればと願っています。今では、「こんにちは」と言ってくれる人も増えてうれしく思います。

今回は、活動に関する記事で終わってしまいました。ああ、残念。たくさん書きたいことがあるので、ぜひ次回で。

それでは、また会いましょう~~~~。



分解できるゴミ・できないゴミについての授業風景



あったか〜い ひとときを 〜豊茂イルミテヤまつり〜

イルミテヤ2015が、旧豊茂小学校で開催されました。

日が沈みあたりが暗くなると、イルミネーション点灯のカウントダウンが始まりました。約2万球の電球が幻想的に会場を照らすなか、地元小学生を中心としたハンドベルの演奏やライブコンサートなども行われました。



全員笑顔でゴールイン 〜第33回肱川健康マラソン大会〜

恒例の肱川健康マラソン大会が開催され、今年は108人の参加がありました。

時折冷たい風が吹く日でしたが、1 km、2 km、4 kmの各コースの参加者全員が、元気に完走を果たしました。

最後は、地元「肱川町さわやかボランティア実行委員会」による、手作りの豚汁が振る舞われました。



一年の幸福を願って 〜正月用しめ縄づくり〜

大洲市老人クラブ連合会河辺支部による、恒例のしめ縄づくりが河辺基幹集落センターで行われました。

手作業で丁寧に作られたしめ縄は、仕上がりが美しいと好評で、この日は、4種類のしめ縄140本を作成しました。

完成したしめ縄は、公民館や小中学校などの公共施設に配布されています。



地震だ 頭を守って机の下に 〜シェイクアウトえひめ〜

地震発生に備えて参加者が一斉に身を守る防災訓練「シェイクアウトえひめ」が、県内各地で行われました。

三善保育所では午前11時、「地震だ」の声とともに児童が一斉に机の下に隠れ、頭を守って揺れがおさまる合図を待ちました。この日の夕方には、保護者へ児童を引渡す訓練も行われました。

「元気歯つらつコンクール」入賞

昨年11月27日(金)、県と県歯科医師会主催の「元気歯つらつコンクール」が開催されました。

このコンクールは、80歳以上で自分自身の歯が20本以上ある(8020)人が対象で、八幡浜管内で第1次審査、県全体で第2次審査を経て選考されます。

大洲市からは、油弘江さん(久米)と西野陽子さん(大川)の2人が入賞し、表彰を受けられました。

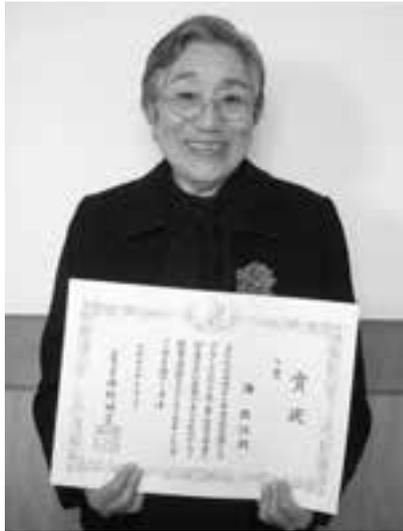
油さんに健康の秘訣を伺うと「毎日、歯ブラシや歯間ブラシを使って歯磨きをし、口の中をいつも清潔に保つよう心掛けている」と話されました。

西野さんは、「塩豆や小魚など、固い物が好きで、よく食べる。小魚などは、骨ごと食べる」と言われました。

その他の入賞者からは、「いりこをすりつぶしてよく食べていた。子どものころは、甘い物などなく、固い物をよく噛んで食べていた。歯科医院を定期的に受診し、歯科医師と仲良くするようになっている」などの声がありました。



西野陽子さん



油 弘江さん

ありました。一般的に、20本以上の歯があれば、食生活にほぼ満足することができますといわれています。表彰された人は、みなさん若々しく、社会的で笑顔がとても素敵でした。より多くの人が8020を達成できるよう、大洲市でも、歯の健康についていろいろな取り組みを行っていきます。

第40回「みどりの絵」コンクール表彰

三菱UFJ環境財団と日本ユネスコ協会連盟が主催で実施している「みどりの絵」コンクール「わたしが守りたい身近な自然」部門で、林眞生さん(平小学校4年)が見事優秀賞を受賞しました。

林さんの絵には、肱川のうかいで鵜がアユを捕った様子が大きく描かれています。

林さんは「大洲のうかいをこれからもずっと続けて、たくさんの人に見てもらいたいという思いを込めて描いた。受賞したことを知ってびっくりした」と話されました。



中野 覚 夫さん
(大 洲)
元久米小学校長

中野さんは、長年にわたり学校教育に尽力されたご功績により、このたび「瑞宝双光章」を受章されました。

高 齢 者 叙 勲 瑞 宝 双 光 章



豊茂自治会の買い物難民対策「ミニスーパー豊茂」について研究を行っていた松山大学の学生が、昨年12月21日(月)、市役所で研究成果報告会を行いました。報告会では、加藤光一教授のゼミ生10人が取り組んだ住民アンケートや聞き取り調査について、「買い物難民とコミュニティの再建―大洲市豊茂自治会の活動」と題して3年生の藤井孝哉さんが発表しました。

発表者の藤井さんは「移動販売は、地域に住む高齢者の見守りも



兼ねている。豊茂自治会の取り組みが、買い物難民対策のモデルとして今後大いに発展して欲しい。来年度、卒業論文のテーマとして引き続き調査したい」と述べられました。

大学生による発表を聞いた藤淵良子豊茂自治会長は「分析結果を出してもらい、客観的に見る事ができた。ミニスーパーの課題も見えてきた。発表を基に地域で勉強会などを実施し、これからのことを議論していきたい」と話されました。

松山大学生が研究成果を報告

大和イルミネーション、キャンドルナイト

大和小学校周辺の郷地区では、個人の家々のイルミネーションが昨年12月5日(土)から1月9日(土)までともされました。

初日には、屋台や石炭で走るミニSLが登場し、子どもからお年寄りまで笑顔で夕暮れまで楽しみました。

その後、イルミネーション点灯式とキャンドル点火が行われ、イルミネーションの明るい光と約2,000本のキャンドルの暖かい光が、大和地区の通りを彩りました。



旬のイチゴ いただきます

徳田観光いちご園で昨年12月9日(水)、川本観光いちご園で12月25日(金)に、それぞれ開園に先立ち、地元保育所児童によるイチゴ狩り体験会が行われました。

川本観光いちご園に招待された菅田保育所(今田邦子所長 児童92人)の5歳児21人は、「紅い薬」や「あまおとめ」など、赤く熟した大きなイチゴを収穫し、おいしそうに頬張っていました。

園主の川本英男さんは「今期は、冬の初めが暖かく天気が良かったので、イチゴにとって最高のシーズン」と、出来の良さに満足されていました。



世代から世代へ 伝統料理をつなぐ



昨年12月22日(火)、大洲農業高等学校(渡邊吉正校長・生徒249人)の調理室で、「第2回大洲農高生と大洲市生活研究会による大洲伝統食の継承プロジェクト」が開催されました。

このプロジェクトは、生活研究会員を講師として、農高生が伝統食の継承に向けた取り組みを行うとともに、地元農林水産物の6次産業化に向けた知識と技術の習得を図ることを目的に開催されています。

この日は食品デザイン科2年食品製造専攻生7人が、講師である生活研究会員5人から調理法を教



わりながら、大洲に伝わる丸寿司や豆腐の田楽、焼き干しアユのだしを使った吸い物など5品を作りました。

プロジェクトリーダーの下坂ツル子さんは「最近では、レトルト食品や出来合いの料理が食卓に並ぶことが多くなった。少しでも、手づくりの伝統料理を知って、次世代につないでほしい」と話されました。また、参加した生徒の城本真希さんは、「今の若い人たちが知らない食材や調理法ばかりで、新鮮だった。私たちが伝統食を受け継ぎ、広めていきたいと思う」と、感想を話されました。

プロ選手から学ぶ「野球の楽しさ」



2015シーズンで独立リーグ日本一に輝いた、愛媛マンダリンパイレーツに所属する選手による野球教室が、1月6日(水)に大洲南中学校(藤岡朋校長・生徒222人)で開催されました。

高原投手と白方内野手(松山商業高等学校出身)が訪れ、この日参加した13人の野球部員は投手と野手に分かれて、投球フォームのチェックやロングティーなど打撃の指導を受けました。練習後、両選手からは「野球は上手になると楽しい。今日分かったことを自分の武器にして、もっと野球を楽しんでほしい」と激励の言葉がありました。野球部キャプテンの徳田知倅さんは「見習うことがたくさんあった。学んだことをしっかりと今後の練習や試合で生かしていきたい」と話されました。

また、昨年12月25日(金)に新谷中学校(土居聖治校長・生徒116人)で、1月7日(木)には粟津小学校グラウンドでも同野球教室が開催されました。体幹トレーニングや守備練習などを行い、子どもたちは真剣な表情でプロ選手からの指導を受けていました。

